

ブルーギル属

及びブルーギル属内の種間の交雑個体

別紙2

分類：スズキ目サンフィッシュ科

学名：*Lepomis* spp.、*Lepomis* sp. × *Lepomis* sp.

英名：

和名：ブルーギル属及びブルーギル属内の種間の交雑個体

原産地と分布：原産地は北米東部～メキシコ北部。海外ではレッドブレストサンフィッシュ *L. auritus* やグリーンサンフィッシュ *L. cyanellus* 等がヨーロッパや韓国、南米、オーストラリア等の他、アメリカ合衆国の非分布地域に外来分布している。国内ではブルーギル (*Lepomis macrochirus*) が全国に、ロングイヤーサンフィッシュ (*Lepomis megalotis*) が岐阜県に、パンプキンシードサンフィッシュ (*L. gibbosus*) が石川県に定着している。

未判定外来生物：サンフィッシュ科の全種及びサンフィッシュ科に属する種同士の交雑により生じた生物。ただし、オオクチバス (*Micropterus salmoides*)、コクチバス (*M. dolomieu*)、ブルーギル属の全種 (*Lepomis* spp.)、ブルーギル属に属する種間の交雑により生じた生物を除く

種類名証明書添付生物：サンフィッシュ科の全種及びサンフィッシュ科に属する種同士の交雑により生じた生物

形態的特徴：ブルーギルとよく似た体形(ホームベース型)。体色は種によって様々で、金属的な黄色かオリーブ色あるいは茶色の地色に青や赤、黒などの斑が入る。基本的に鰓蓋の後端は突出し、暗色の斑がある。最大全長は種によって異なるが、小型の種で10cm程度、大型の種で40cm程度。

ブルーギル

ホームベース型の体形

① 尾びれ後端は二又する

② 鰓蓋の後端は突出し、暗色の斑がある

©JWRC なかがわ水遊園撮影協力

パンプキンシードサンフィッシュ

①

②

©JWRC なかがわ水遊園撮影協力

ロングイヤーサンフィッシュ

①

②

©JWRC なかがわ水遊園撮影協力

マーレーコッド

分類：スズキ目ペルキクティス科（狭義）

学名：*Maccullochella peelii* (Mitchell, 1838)

英名：Murray cod

和名：マーレーコッド

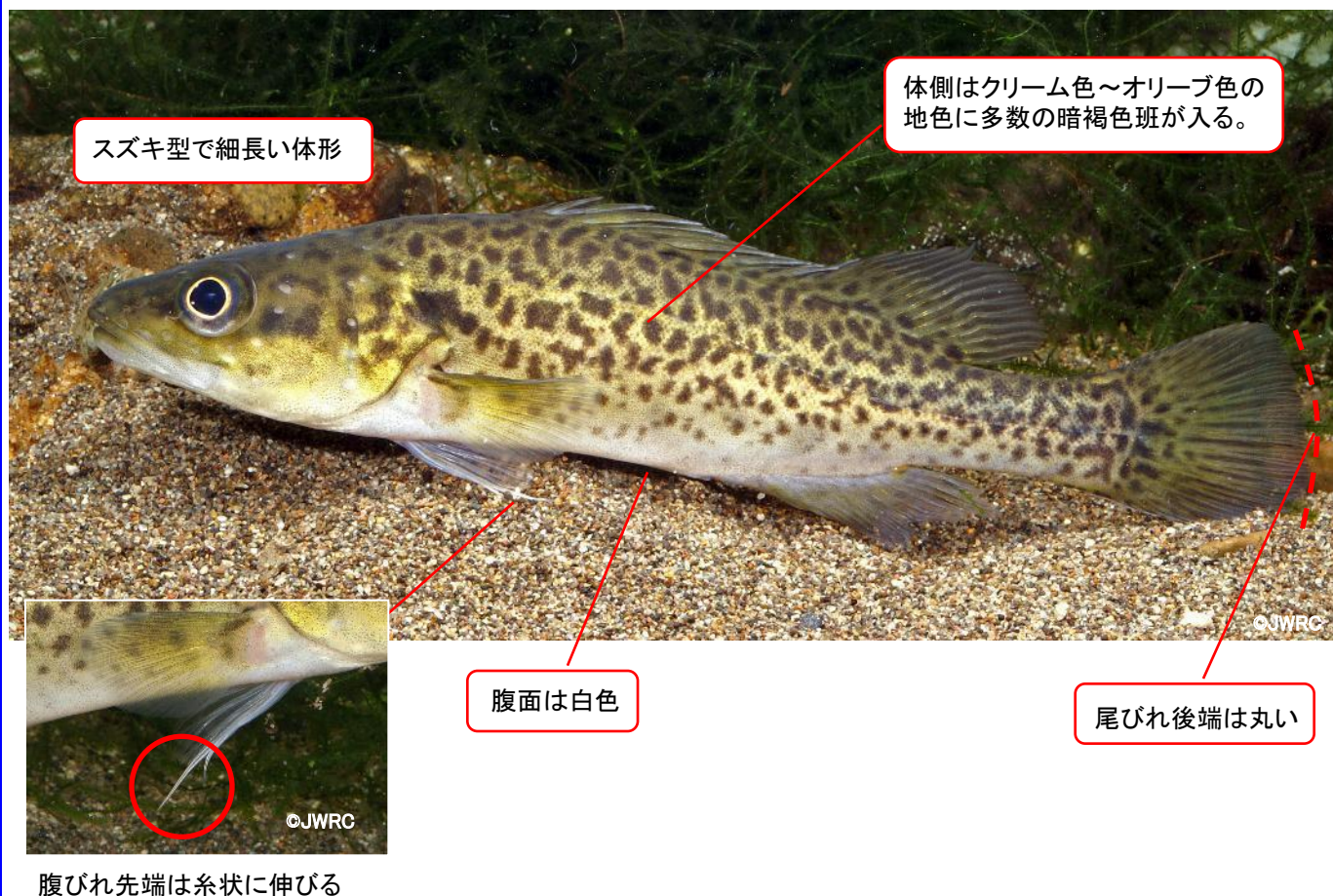
別名：マーレーリバーコッド

原産地と分布：原産地はオーストラリア東南部のマーレー・ダーリング川水系。移入分布は知られていない。国内では一部の管理釣り場で許可を得て利用されている。

未判定外来生物：マクルロケルラ属の全種。ただし、マーレーコッド(*M. peelii*)を除く。

種類名証明書添付生物：ガドプスイス属、マクルロケルラ属、マククアリア属及びペルキクテュス属の全種

形態的特徴：体はスズキ型で細長い。体側に多数の暗褐色斑が入り、背中があまり盛り上がらないことで、類似するゴールデンパーチと識別可能。口は大きく、上顎後端は目の後方に達する。腹びれは先端が糸状に伸びる。尾びれの後端は丸い。体側はクリーム色～オリーブ色の地色に多数の暗褐色斑が入り、腹面は白色。全長は最大で180cm。



特記事項：大型になる捕食性の魚類であり、オーストラリアでは釣魚として人気種である。日本では観賞魚として一部で利用されているのみだったが、最近になって管理釣り場での利用がされ始めた。河川や湖沼に導入されれば定着し、在来生物の捕食によって重大な被害を及ぼすおそれがある。

マーレーコッド(*M. p. peelii*)とマーレーリバーコッド(*M. p. mariensis*)の2亜種が知られている。

ゴールデンパーチ

分類：スズキ目ペルキクティス科（狭義）

学名： *Macquaria ambigua* (Richardson, 1845)

英名： Golden perch

和名： ゴールデンパーチ

原産地と分布： 原産地はオーストラリア東南部のマーレー・ダーリング水系、ドーンソン川等。移入分布は知られていない。

未判定外来生物：マククアリア属の全種。ただしゴールデンパーチ (*M. ambigua*) を除く。

種類名証明書添付生物：ガドブスィス属、マクルロケラ属、マククアリア属及びペルキクテュス属の全種

形態的特徴： 体はスズキ型で細長く成魚の背中が盛り上がる。背中が盛り上がる点が、類似するマーレーコッドとの識別点。口は大きく、上顎後端は目の中央直下に達する。腹びれは先端が糸状に伸びる。尾びれの後端は丸い。体側は暗褐色～オリーブ色で、腹面は黄白色。幼魚は銀色の地に灰色の斑点が入る。全長は最大で76cm。

スズキ型の体形で背中が盛り上がる

体側は暗褐色～オリーブ色。明瞭な斑紋などは無い。

尾びれ後端は丸い

腹面は黄白色

腹びれ先端は糸状に伸びる



©JWRC

©JWRC

特記事項： 大型になる捕食性の魚類であり、オーストラリアでは釣魚として人気種である。日本では観賞魚として利用されていた。河川や湖沼に導入されれば定着し、在来生物の捕食によって重大な被害を及ぼすおそれがある。

*M. ambigua*と*M. sp.B*の2種に分けられるとの見解がある。

オヤニラミ属(*Coreoperca* 属)に属する種のうちオヤニラミ (*Coreoperca kawamebari*) 以外のもの

分類: スズキ目 ケツギョ科 オヤニラミ属

未判定外来生物: なし
種類名証明書添付生物: なし

①

学名: *Coreoperca herzi*

和名: コウライオヤニラミ

②

学名: *Coreoperca whiteheadi*

和名: ナンエツオヤニラミ

別名: カイナンオヤニラミ
チュウゴクオヤニラミ
ナンシオヤニラミ
ハイナンオヤニラミ など

③

学名: *Coreoperca liui*

和名: なし

別名: チュウゴクオヤニラミ など

原産地と分布: オヤニラミ属は東アジアの純淡水域に広く生息する。コウライオヤニラミは朝鮮半島、ナンエツオヤニラミは海南島を含む中国南部からベトナム北部にかけての地域、*Coreoperca liui*は中国浙江省の銭塘江水系に分布する。

日本国内においては、コウライオヤニラミが宮崎県大淀川水系と群馬県利根川水系に侵入・定着しており、ナンエツオヤニラミが宮崎県大淀川水系から記録されているが、定着には至っていない。

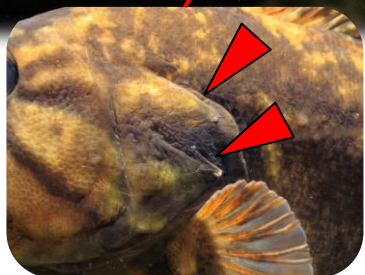
形態的特徴① オヤニラミ属の形態的特徴

①下顎は極端に突出しない

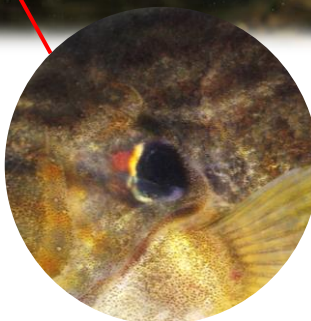
③背びれの基底は長く
背鰭棘条は11~14、
背鰭軟条は8~14

コウライオヤニラミ

© 森宗智彦



③鰓蓋上方に2本の大きな棘をもつ



④鰓蓋の上方に、目のような大きな斑をもつ

形態的特徴② オヤニラミ *Coreoperca kawamebari* と海外原産オヤニラミ属の識別

オヤニラミ属には、特定外来生物である3種のほかに、日本および韓国に自然分布し、環境省RL2020において絶滅危惧II類として掲載されているオヤニラミ *Coreoperca kawamebari* が存在する。

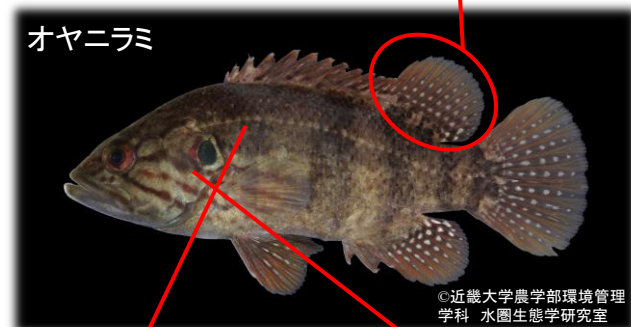
オヤニラミと同属他種は以下の特徴で識別される。

オヤニラミ 在来種

体長: 10cm以下

①背鰭軟条数は13以下

オヤニラミ



②鰓耙数が11以上

③体表の鱗が大きく
側線有孔鱗数が50以下

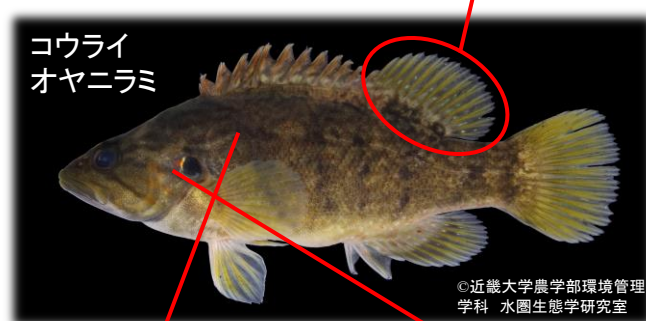


オヤニラミ以外のオヤニラミ属 特定外来生物

体長: 10cm以上

①背鰭軟条数は13以上

コウライ
オヤニラミ



②鰓耙数が11以下

③体表の鱗が小さく
側線有孔鱗数が50
以上



形態的特徴③ 特定外来生物のオヤニラミ属の識別

①臀鰭軟条数9以下

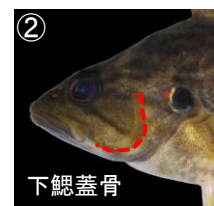
②下鰓蓋骨が鋸歯状



コウライオヤニラミ

Coreoperca herzi

体長: 20cm



①体高が比較的高く、体高が体長の
28.3~31.9%

②眼の隔幅が比較の狭く、眼径より狭い

ナンエツオヤニラミ

Coreoperca whiteheadi

体長: 20cm



①臀鰭軟条数9以上

②下鰓蓋骨が円滑

①体高が比較的低く、体高が体長の
33.5~39.1%

②眼の隔幅が比較の広く、眼径と同程度

Coreoperca liui

体長: 16cm